

年金記録問題検証委員会（第3回） 議事要旨

1. 日 時 平成19年7月4日（水）18時30分から20時

2. 場 所 中央合同庁舎第2号館 8階第1特別会議室

3. 出席者

（委員会） 松尾座長、金田委員、川本委員、齊藤委員、野村委員、東田委員、屋山委員

（総務省） 田村総務副大臣、河合総務大臣政務官、熊谷行政評価局長、伊藤審議官 ほか

（社会保険庁） 村瀬社会保険庁長官 ほか

4. 主な議題

- (1) 第2回以降の動きについて（事務局報告）
- (2) 社会保険庁ヒアリング
- (3) 今後の検証及び調査の進め方
- (4) 中間段階の発表に向けて

5. 会議経過

- (1) 総務省行政評価局から、「国民からの情報提供」の受付状況（7月3日までの受付件数は、郵送及びFAXで32件。インターネットは9日から受け付け。）など、第2回以降の動きについて、説明があった。
 - (2) 座長から、委員会の現時点での問題意識及び今後の活動について、以下の説明があった。
 - ① 年金記録問題の大きな論点は次の3点と考えている。
 - ・5,000万件、1,430万件がどういう意味をもっているのか、国民に分かりやすい形で説明すること
 - ・オンライン化されている記録の正確性
 - ・それほど数は多くないと思うが、オンラインにも紙にも記録がないという問題
 - ② 今後の検証の進め方の主なポイントは次のとおり。
 - ・委員会が年金記録問題をどうとらえているかについて、国民に分かりやすい形で説明すること
 - ・委員会のスタンス（国民の不安等をしっかり受け止めた、中立、公正、厳正な検証の実施など）を国民に明らかにすること
 - ・具体的な調査事項をまとめること
 - ・専門家によるワーキンググループの設置を具体化すること
- このような検証委員会の議論と当面の活動の概要をできる限り早い機会に発表した上で、実際の活動を精力的に実施したい。

- (3) 社会保険庁から 5,000 万件ほかの問題及び前回までの資料要求事項について、以下の説明があり、引き続き質疑が行われた。主なポイントは次のとおり。
- ・ 5,000 万件、1,430 万件ほかの問題がどういう意味をもっているのか、この年齢の方は入る、入らないなど、どのような方が関係するのかについて、国民の側から見たアプローチによる説明があった。
 - ・ 市町村における国民年金被保険者名簿等の保管状況について説明があった。平成 14 年 3 月末時点の旧市町村 3,246 ベースで、現在「保管している」旧市町村が 3,046、「保管していない」旧市町村が 200 という数字及び「保管していない」市町村名を列記した資料が提出された。
 - ・ 委員から、「保管していない」とした市町村にも実はよく調べれば一部記録が残っている場合がある、5,000 万件が基礎年金番号に統合されなかった原因を明確にしてほしい、裁定時につながったケースは「どうつながらなかったものがどう解決したのか」示して欲しいなどの意見、要求があった。
- (4) 委員会の現段階の論点、基本的スタンス、調査方法などを早急にまとめ、ワーキンググループのイメージなどについても議論するため、週末までにひざ詰めの非公式の形で意見交換すること、早い段階で現状や問題をどうとらえているかをまとめ、国民に分かりやすい形で示そうということに一致し、散会となった。

(文責 事務局)